

基礎自治体が発注する建設コンサルタント業務 における企業選定の現状に関する考察

1150119 濱岡 剛

指導教員：五艘隆志准教授

高知工科大学 システム工学群 建築都市デザイン専攻 建設マネジメント研究室

本研究では、我が国の建設コンサルタント業務における調達実態及び発生している問題を整理すると同時に、基礎自治体における業務ニーズを調査する。また、ヒアリング調査と同時に、四国域内（香美市・香南市・南国市・土佐市）の基礎自治体による建設コンサルタント業務の入札公告を集め、分析を行う。

Key Words : 建設コンサルタント業務 価格競争

1. 序論

1.1 研究の背景と目的

本研究の起点は、技術を競う知的産業であるべき建設コンサルタント業務が、価格競争によって調達され、結果的に低価格での案件の落札が起こり、品質悪化が懸念されるということである。価格競争だけでなく、総合評価落札方式やプロポーザル方式などといった多様な調達方式は、既に導入されている実績がある。本研究では、基礎自治体におけるコンサルタント業務の調達実態を把握・分析し、現状における問題点を抽出し、改善提案に向けた議論の基礎を整理することを目的とする。

2. 調達実態の現状把握

2.1 建設コンサルタント業務・建設工事の比較

図1は、香美市・香南市・南国市・土佐市の建設コンサルタント業務（2013.4～2014.9）、図2は、香美市・香南市・南国市・土佐市の建設工事（2013.9～2014.9）の入札結果を予定価格との比率（落札率・応札率）でまとめたものである。図-1、図-2を用いて、建設コンサルタント業務と建設工事における調達実態の比較分析を行う。

応札率150%以上の案件は、建設コンサルタント業務では2268件（応札総数）中124件存在し、応札全体の5.5%を占めている。一方、建設工事の場合は3501件（応札総数）中48件存在し、応札全体の1.4%を占めていることが分かった。また、応札率70%以下の案件は、建設コンサルタント業務では、2268件（応札総数）中128件存在し、応札全体の5.6%を占めており、そのうち58件（落札者全体の18%）が落札に至っていることが分かった。一方、建設工事の場合、3501件（応札総数）中74件存在し、応札全体の2.1%を占めており、そのうち4件（落札者全体0.6%）が落札に至った。以下の結果と図-1、図-2から、建設工事に比べ建設コンサルタント業務の方が応札範囲が広く、また、低価格入札による落札も多いことから、建設コンサルタント業務が価格競争に直面していることが分かる。なぜ、建設工事に比べ建設コンサルタント業務の価格競争が

争が厳しいのであろうか。理由としては、建設工事は、工事数量や図面から業務範囲がある程度明確であり、積算基準の標準歩掛から予定価格や最低制限価格を精度よく推算することが可能となる。一方、建設コンサルタント業務は、一部を除いて仕様書のみからでは、業務の総量が把握しにくく、予定価格や最低制限価格を精度よく推算することが出来ないのが理由として考えられる。

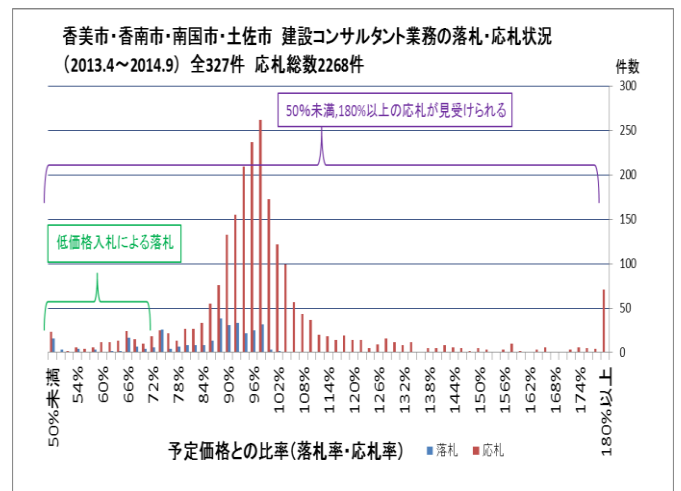


図-1 建設コンサルタント業務の現状

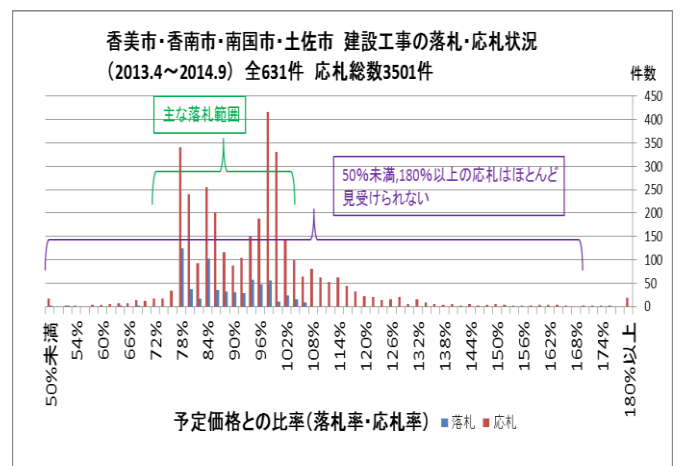


図-2 建設工事の現状

2-2 建設コンサルタント業務の金額別・業務別の分析

図-3、図-4は、香美市・香南市・南国市・土佐市の建設コンサルタント業務を金額（予定価格）別にまとめたもの、表2は、業務別にまとめたものである。図-3、図-4の結果から、予定価格が100万～300万の案件数（落札数125件、応札数953件）が全体に占める割合が非常に大きいことが分かる。以降、予定価格100万～300万に着目して考える。応札率150%以上の案件は、953件（応札数）中70件存在し、全体の7.3%を占めている。また、応札率70%以下の案件は、953件（応札数）中50件存在し、全体の5.2%を占

おり、そのうち34件（落札者総数の10.3%）が落札に至った。この結果からも、応札範囲が広く、かつ低価格入札による落札が多いことが分かる。また、表-2から、予定価格100万～300万の案件数（125件）の中に標準積算がない案件が20件存在し、その案件内容は、計画や補修設計、耐震診断業務など技術者に高度な技術判断が求められる業務であった。そういった案件は、大手企業と地元企業が応札に加わっていることがほとんどであった。また、こういった難易度の高い業務でさえも価格競争が行われている調達実態が明らかとなった。

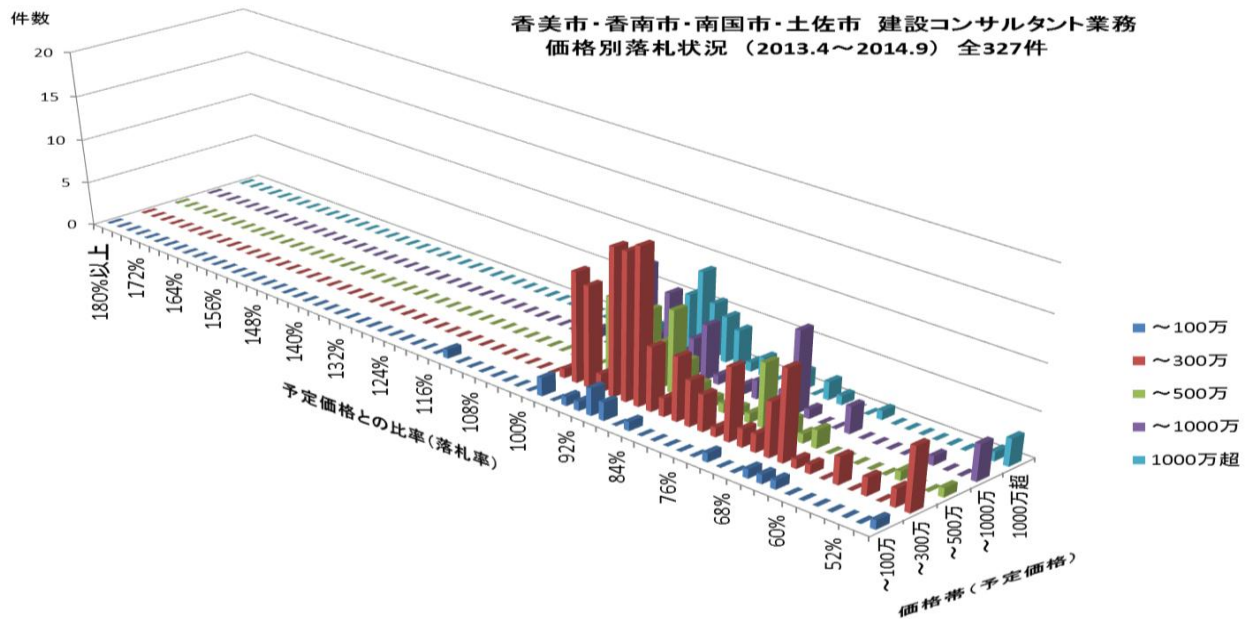


図-3 建設コンサルタント業務 価格別落札図

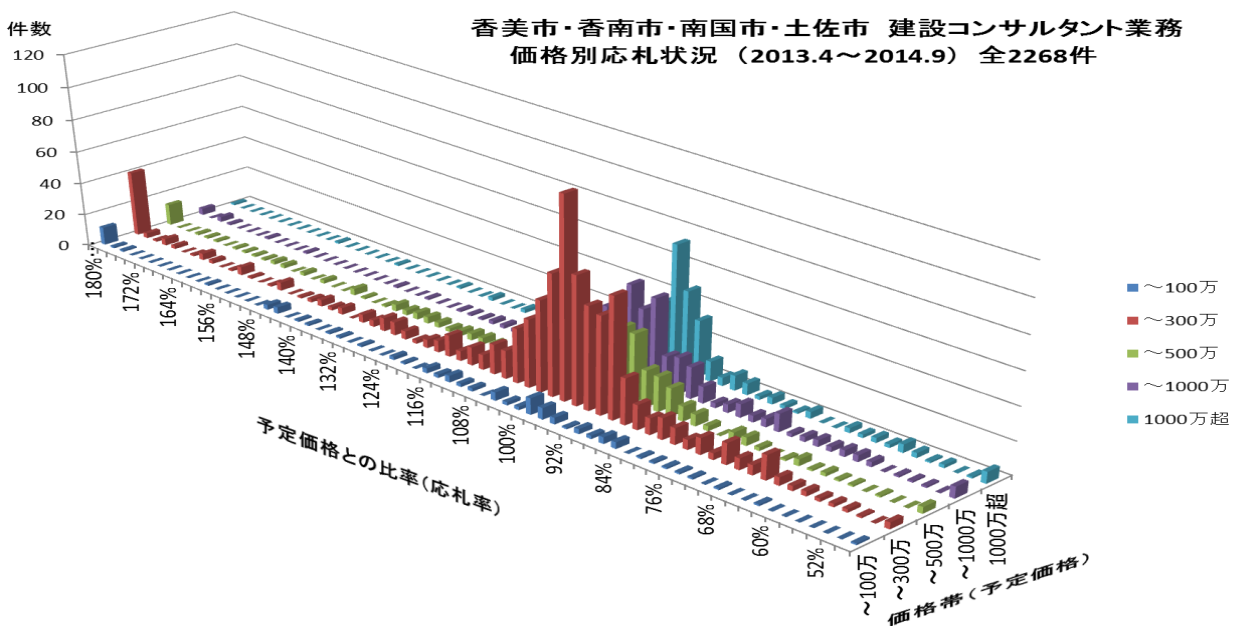


図-4 建設コンサルタント業務 価格別応札図

表2 価格・業務別

予定価格 指名先	~100万	~300万	~500万	~1000万	1000万超
大手		計画 1件	計画 3件	設計 2件 計画 1件	設計 2件 作成委託 1件
大手+地元		検査・調査 13件 設計 6件 更新 1件 作成委託 1件 評価委託 1件	検査・調査 4件 設計 6件 計画 2件 工事監理 2件	検査・調査 3件 設計 12件 測量 1件 計画 3件 検討委託 1件	検査・調査 1件 設計 3件 計画 1件
地元のみのみ	検査・調査 7件 設計 9件 測量 2件 施工監理 4件	検査・調査 43件 設計 35件 測量 14件 計画 1件 管理 4件 作成委託 2件 草刈 2件 工事監理 1件	検査・調査 16件 設計 16件 測量 6件 管理 1件 処理委託 1件 作成委託 2件 工事監理 2件	検査・調査 9件 設計 15件 測量 4件 工事監理 6件 草刈委託 1件	検査・調査 7件 設計 7件 測量 14件

3. 今後の課題

香美市・香南市・南国市・土佐市の入札結果の分析から、現状はほぼ、「指名+価格競争」が行われていることが分かった。ヒアリング調査（香美市・香南市・南国市）の結果からも、指名の段階である程度信頼できる地元の業者を選定するという前提があり、価格競争で動いているということ、また、仕様書や予定価格の設定も、積算基準や県の事例等を用いることで解決する事例が多く、市としては現状の調達状況に困るという認識がないことが分かった。積算基準に網羅されている測量業務や定型的かつ安価な設計業務、検査する官側技術者にも高度な技術判断が求められるわけではない種類の業務で価格競争でも問題はなく、市が置かれている現状にも理解が出来る。しかし、以下の事例が当てはまらない難易度の非常に高い案件が出た場合、果たして現状の「指名+価格競争」で良いのだろうか。こういった場合は、技術を競う多様な調達方式を導入する必要があるであろう。マニュアルだけでは仕事が出来ない“創造型”の建築案件（例。香南市三宝山観光拠点化基本構想策定事業）は、コンペを用いるなど価格より技術を評価している点が伺える。しかし、マニュアルに準じた“消化型”の土木案件は、技術というよりむしろ価格を重視している。なぜ土木案件は、価格なのであろうか。土木案件の中にも、定型業務と非定型部分が混在しているマニュアルだけでは対処することが出来ない事例が存在する。表-3、表-4は、対処することが出来ない事例として香南市道橋

梁長寿命化修繕計画作成委託業務の業務フローを挙げる。例えば、「長寿命化修繕計画基本方針の策定」は、建設コンサルタント会社が持つ技術の知識、情報源によって大きく内容が異なる。また、「橋梁の健全度評価」は、一応評価のための写真付きのマニュアルが存在するが、経験を積んだ技術者が現場に当たらなければ正当な評価を下すには難しい面がある。現状ではこうした業務は、定型業務と非定型業務が1本となり、技術でなく価格によって企業を選定している。今後は、1本の業務であったものを、定型業務部分は価格競争で企業選定を行い、非定型業務部分は、技術競争で企業選定を行う線引きを行っていくこと（表-5参照）が今後の課題となるのではないかと。

表-3 定型業務・非定型業務混在の例

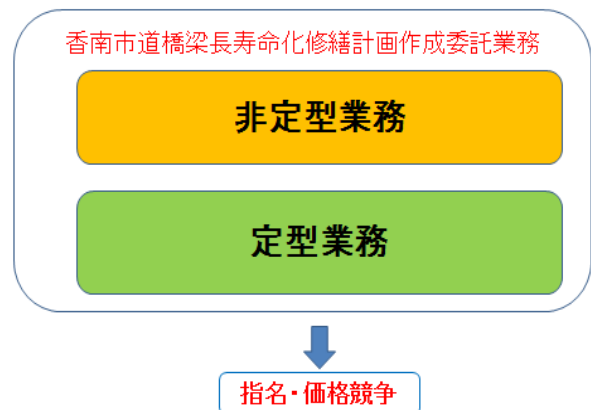


表4 事例（香南市橋梁長寿命化修繕計画作成委託業務の業務フロー）

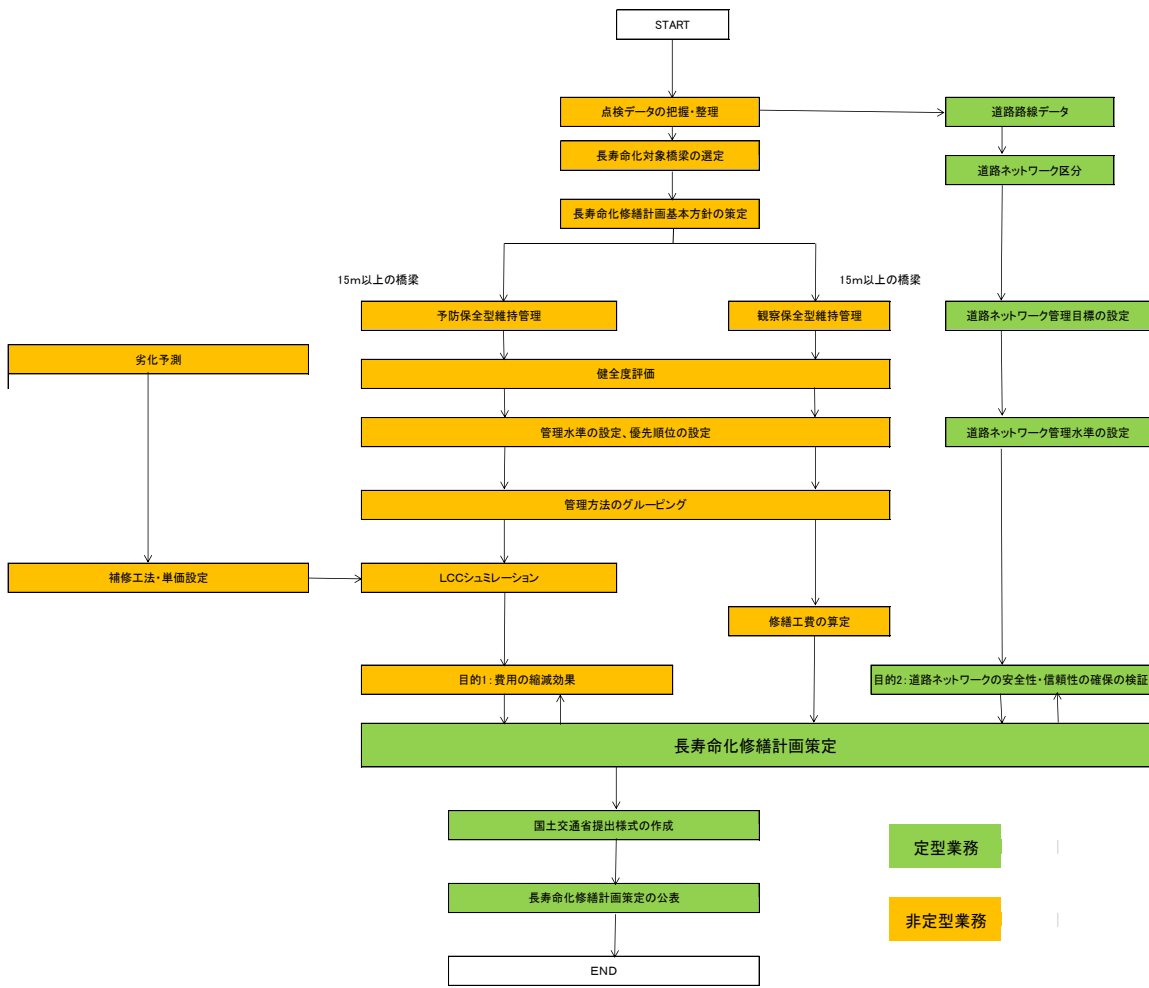
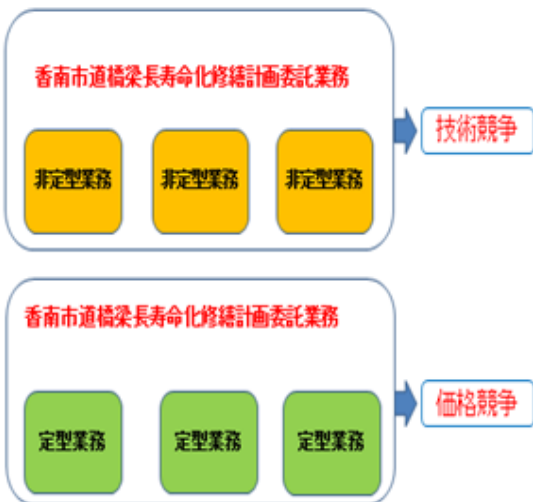


表5 価格競争・技術競争 線引きの例



参考文献

- 1) 高知県香美市入札結果
<http://www.city.kami.kochi.jp/life/2/18/44/>
- 2) 高知県香南市入札結果
<http://www.city.kochi-konan.lg.jp/nyusatsu/?hdnKeyword=%C6%FE%BB%A5%B7%EB%B2%CC>
- 3) 高知県南国市入札結果資料
- 4) 高知県土佐市入札結果
<http://www.city.tosa.lg.jp/life/detail.php?hdnKey=2197>
- 5) 国土交通省大臣官房技術調査課：設計業務等標準積算基準書 平成26年度
- 6) 香南市道橋梁長寿命化修繕計画作成委託業務 仕様書